

平成30年5月14日

昨日の午後に事務所の裏側に積んでいた4本のスノータイヤが綺麗さっぱり消えて去っていた。同室さんも、震災直後にスタンドでは一滴のガソリンさえ買えなかった教訓を活かし燃料を一杯詰ラム缶を裏に置いてお客さんに分けていた。それが1年半も経たないうちに丸ごと無くなっ平和な地方都市郡山の中心部で結構この類の窃盗(下着泥棒も含めて)が多発しています。タイヤも、目をつけて意図的に持っていく不逞の輩が現にいるという点です。ほとんどの普通に暮らし人は人のものをかすめとることなどは決してしませんが、そうでない人達も紛れているのだといくてはなりません。

話は変わりますが、我々からすればどあつかましくてうるさいだけの中国や韓国と思っていたけれど尖閣列島・対馬・南シナ海・竹島・それに沖縄と北海道をまさに狙いすまし確実に侵食侵略をし事実化してきています。周りは良い人だとみなすお花畑(弊社より西南1Kmに御花畑という地名タリティは彼らからすれば都合の良い腰抜けの獲物でせせら笑う対象でしかありません。大切な後ではもう間に合いません。しっかりと戸締まりと何がしかの抑止力を含め対抗策を準備すべ

きて、先月末にある筋からの要請で、自動運転や自動パーキングに使用される超音波センサーの受けました。詳細は申し上げられませんが、原理的に相当無理な相談ではありましたが実現すれば問題は出来る出来ないの話ではなく基本的にセンサーの特性の根幹に関わる話であり、これがすいることに誰も気付いていないことです。この先、自動運転や自動駐車の大きな市場が見込まれ車の先駆けたるテスラが先陣を切っています。テスラではカメラとミリ波、それに前後6個づつ、波センサを搭載しています。超音波センサは主に低速時の近距離部分の監視で、とりわけ自動駐に使用されるようです。

問題は同じ周波数の超音波センサーを前後に12個も取り付け付けた車両どおしが、渋滞した一般道をり、向い合わせになって通過したりした際に、互いに干渉しあって誤動作することです。自動駐前後にエンジンのかかった(センサーが動作している)車両があった場合は、間違いなく干渉しをして周りの車両や構造物にぶつかる危険性があります。今は同種の車両がほとんど走行していな干渉による誤動作の可能性はほとんど問題にしないで済みますが、数が少し増えますと世界中ち往生の事故が頻発します。1台の車に超音波センサーを12台付けようが100台付けようが取れば何らの問題はありますが、センターラインを境に向かい合ったり、片側2車線で併走すのセンサーどおしで照射しあい、障害物があると判断して車が急遽減速停止となり、かなりヤバこんな単純なことに想いが及ばぬ開発陣の想像力の欠如は笑って済まされない重大事だと思っ討すべき課題だと私は思います。この問題は今なお、解決すべきテーマのひとつであります。

テスラ Model Sに存在しているセンサー

ミリ波レーダー1台

中間レンジ帯のレーダーがフロントグリルに搭載

カメラ1台

前方監視カメラがフロントガラスのバックミラー下に搭載

超音波センサー12台

超音波センサーがフロントバンパー、理やバンパー付近に搭載

